

◆基本理念

1. 何かある、観光で潤うまち

国内旅行者、訪日外国人旅行者ともに、観光地に求めるニーズが多様化している中、観光事業者同士の連携にとどまらず、様々な業種が連携を行い、今ある観光素材の磨き上げや、継続的な集客の仕掛けづくりを進め、何度でも訪れたい、1年を通して訪れたいと思うまちを目指します。

2. 交流人口、消費額の拡大

お客様目線で「感動」を与える取り組みを実施します。日本全体において、少子高齢化が急激に進行しています。世界中の観光地の中から「仙北市」を選んでもらうために、人材育成、受け入れ態勢強化は不可欠です。地域経済を維持発展させるためにも、長期滞在の観光地、観光消費額の拡大を目指します。

3. ブランドの確立と発信

世界が認める「乳頭温泉郷」「武家屋敷通り」「角館祭りのやま行事」等の高い知名度を活かし、ブランドを確立し発信します。「歴史的な文化施設」「自然資源」「8つの泉質がある温泉」「伝統の継承」等、国内外に誇れる仙北市のイメージが浸透し実感できるために、質を向上させ統一ブランド化し、観光産業のみならず、新たな食の開発等も含めた発信を目指します。

◆計画期間

平成30年度（2018年）から平成34年度（2022年）までの5年間

◆戦略の柱

1) 湯治文化の再創造 ～ 温故知新 ～

昔ながらの湯治文化を今に残す仙北市。「源泉かけ流し」「8つの泉質」「温泉療養」等、歴史を感じながら温泉を楽しむ湯治客も多くいます。一方では、旅行形態は「団体」から「個人」へ、消費も「モノ」から「コト」へと変化し、

温泉地に求めるニーズも多様化しています。そこで旧来の湯治と、運動・科学を組み合わせた近未来型湯治「ヘルスケア」を推進し、新たな湯治文化を目指します。

「温泉を科学的に活用」

- ★効用を明確にする
- ★効果的な入浴、温泉、泉質の活用
- ★8つの泉質を活用した小トリップ

「健康保養地としての活用」

- ★「オンセルジュ^{（※3）}（仮称）」認定と推進
- ★「食べる」「動く」「笑う」「入る」をプログラム
- ★ヘルスケアツーリズム^{（※4）}の創造
- ★健康に関心が高い北京・上海をターゲットにしたプログラム

※3 オンセルジュ：オンセン（温泉）とコンシェルジュ（※9）をあわせた造語。温泉はもろろん、仙北市観光情報も熟知した人のこと。
※4 ヘルスケアツーリズム：旅行という非日常的な楽しみの中で、旅行中のトラブルを回避したり、健康回復や健康増進を図るものを指す。そして旅をきっかけとして、旅行後も健康的な行動を持続することにより、豊かな日常生活を過ごせるようになることをいう。

本市の観光施策全般に関する第二次仙北市観光振興計画を策定しました。

第二次観光振興計画では、仙北市の観光産業の目指すべき姿をより明確にし、行政はもとより市民、企業、関係諸機関の方々と連携を強化し、発展的な戦略およびプロジェクトを実践していきます。そして、市民の声を施策に反映する仕組みとして、観光プロジェクト推進会議（仮称）を設置します。委員については公募する予定ですので、詳細は今後広報等でお知らせします。

◆第一次観光振興計画の総括

第一次観光振興計画（平成19年度から27年度実施）は、観光と農林業、商工業との連携により、市民全体が豊かになる「観光で潤うまちづくり」を基本理念に定め、仙北市の観光を形作っている自然環境や農村風景、文化や歴史を『のこす』、花や緑、温泉、雪、山の幸で人々を『いやす』、仙北市を訪れた人々をあたたく『もてなす』、この3つを基本方針に掲げ進めてきました。この間、農業と観光業の連携によるグリーン・ツーリズム^{（※1）}、日本国内での国際交流のさきがけといわれている、澄清湖と田沢湖との姉妹湖締結を契機とする台湾との相互交流やインバウンド^{（※2）}の誘客、県と共同で実施している「FIS フリースタイルワールドカップ秋田たざわ湖大会」による冬季観光客減少の歯止め策など、計画的に事業を実施してきまし

た。また、数値目標として掲げた「交流人口1千万人」は、東日本大震災の発生等もあり、平成28年は約500万人と現在も目標を達成できていません。

第一次観光振興計画で課題とした、「日帰り、通過型の傾向」「情報発信不足」「冬季観光客が少ない」「受け入れ態勢が不十分」「観光地間のアクセスが不十分」の5つについても大きく改善に至っていない状態のため、今後は、交流人口を増やしつつ、観光経済波及効果などの目標を掲げ、地域の方々が満足し安心できるよう、課題解決に向けて進めていく必要があります。

※1 グリーン・ツーリズム … 農山漁村に滞在し農漁業体験を楽しむ、地域の人々との交流を図る余暇活動のこと。
※2 インバウンド … 外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。

◆第二次観光振興計画の趣旨

第一次観光振興計画で達成できなかった課題解決に向け、新たな観光振興計画は、仙北市の観光産業の目指すべき姿をより明確にし、行政はもとより市民、企業、関係諸機関の方々と同じ方向に向かって連携を強化し、

平成28年に策定した第二次仙北市総合計画（基本計画（前期））を踏まえつつ、今後の状況に対応するための発展的な戦略、プロジェクトを構築し実践していくものです。

◆仙北市が目指す理想の姿

平成34年（2022年）理想の姿

仙北市の魅力が国内外に浸透し まちが賑わっている



第二次仙北市観光振興計画（概要版）

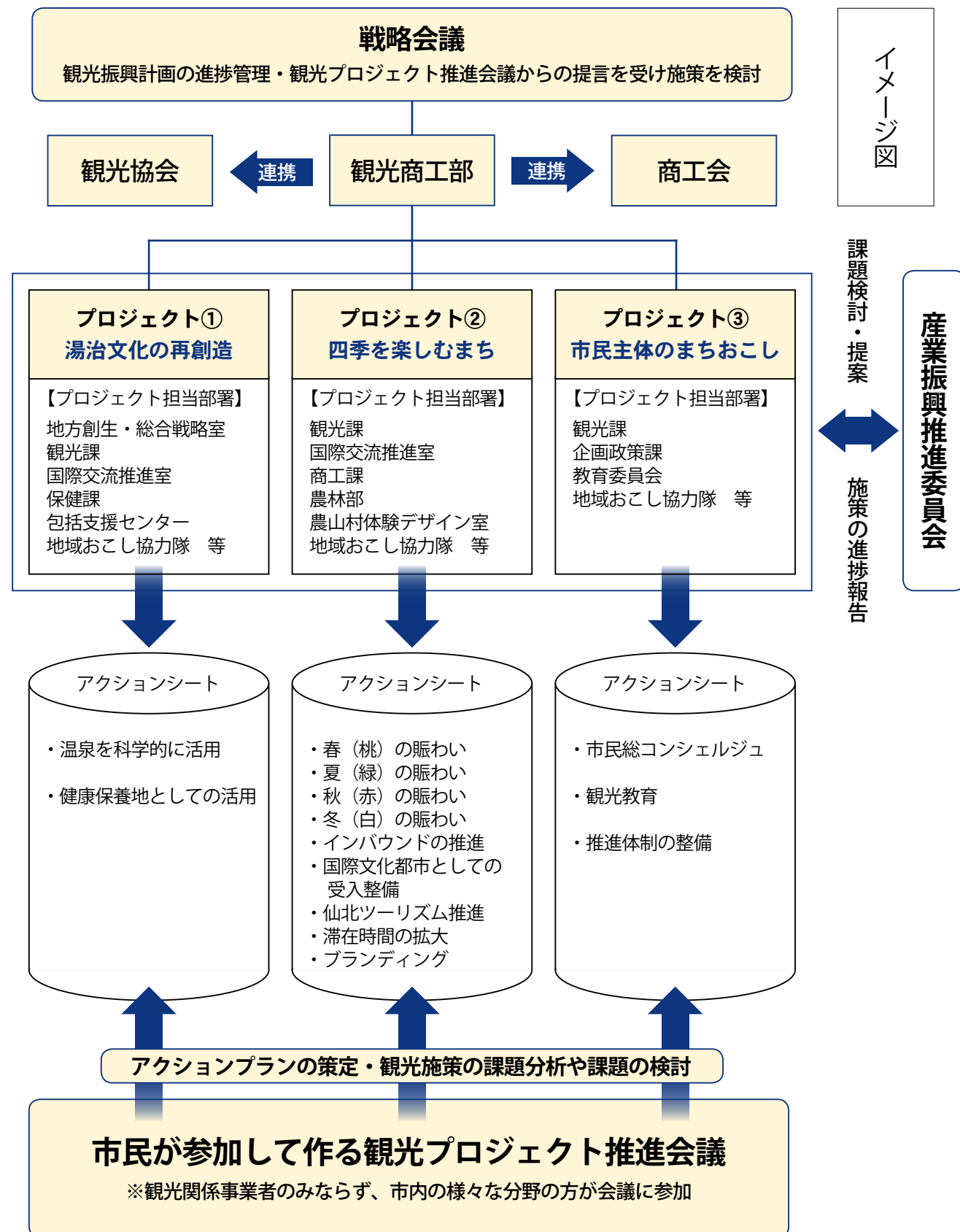
問合せ
観光課 ☎（43）3352
国際交流推進室 ☎（43）3301

◆計画進捗管理およびプロジェクト推進体制

「湯治文化の再創造」「四季を楽しむまち」「市民主体のまちおこし」この3つのプロジェクトをセクションにとらわれず、横断的な体制で実行します。

また、1つひとつのプロジェクトには、さらに細かいアクションプランを定めています、その課題分析や

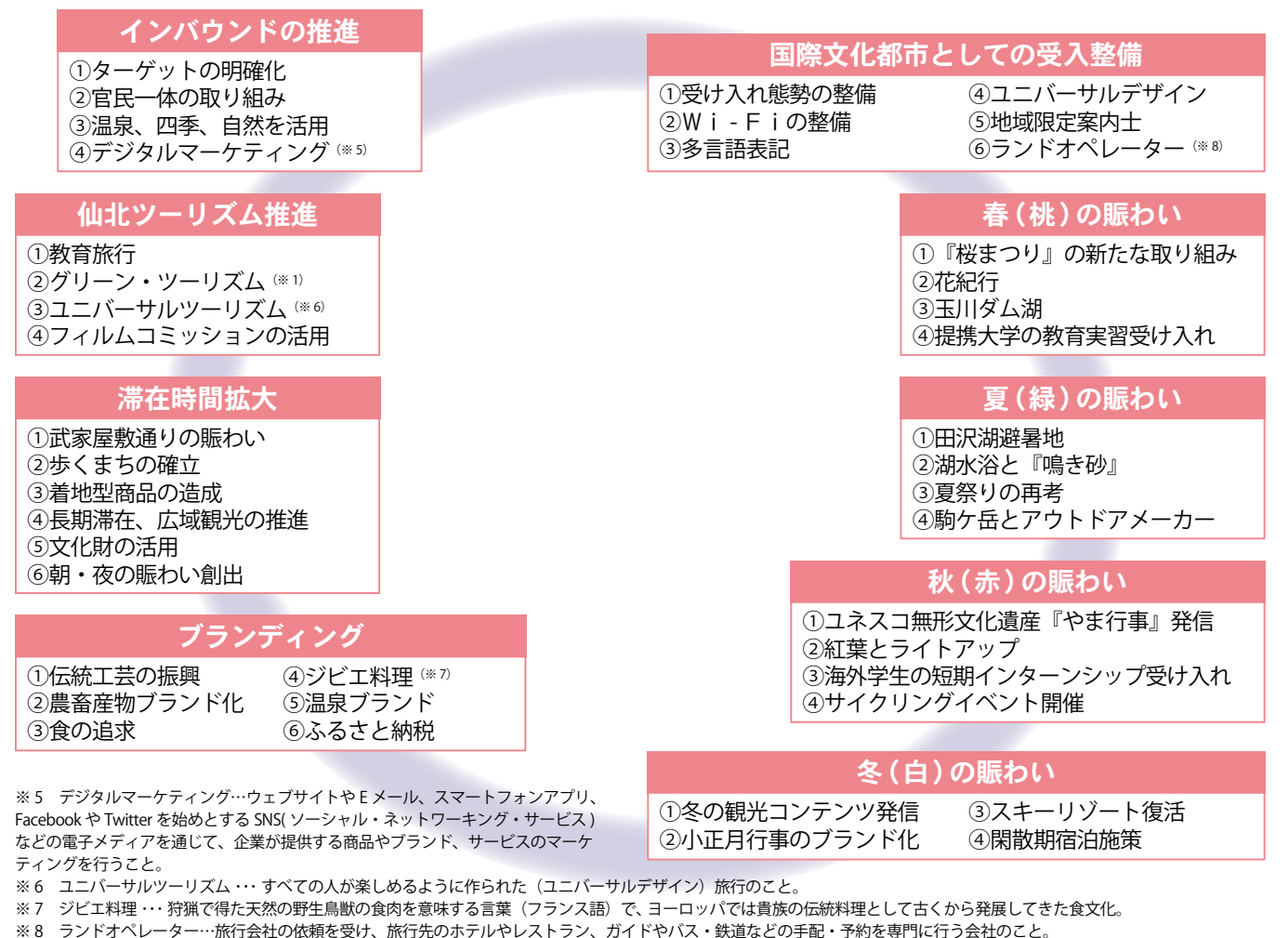
対策を宿泊施設、商業関係者、交通事業者、観光協会等々、観光に携わる市民の方々を含むプロジェクトチームが行います。そしてプロジェクトチームから出された意見を戦略会議で決定し観光施策の形とします。



2) 四季を楽しむまち ～ 何度も訪れたいまちへ～

年間約500万人を受け入れている観光地であるものの、滞在時間は極めて短いのが現状です。国内外からの観光客目線で四季折々に、自分好みの楽しみ方を満喫し滞在できる環境づくりを進めるとともに、市内での賑いの創出、回遊できるコンテンツの提案とブラッ

シュアアップを進め経済波及効果を拡大させます。県内、県外の観光地との周遊観光を提案するための質の向上に取り組み、上質な仙北ブランドを確立し内外に発信します。1年を通して観光客が楽しめるまち、そして住みたいと思っただけのまちを目指します。



3) 市民主体のまちおこし ～ 連携力の強化 ～

